

2023 年 3 月 6 日

世界の人びとのための J I C A 基金活用事業 活動報告書

1. 業務の概要	
(1) 事業名	「Project VOICE」(チャレンジ枠)
(2) 実施団体名	Project Sally
(3) 実施期間	2022 年 4 月～2023 年 3 月
(4) 実施国	マラウイ
(5) 活動地域	マラウイ リロングェ県 ムツィリザ、エリア 4 9
(6) 活動概要	<p>①活動の背景：</p> <p>きっかけは、2019 年、代表の早水が中国・深センで開かれた「UNLEASH イノベーションラボ」という SDGs がテーマのインキュベーションプログラムに参加したときのこと。与えられた課題は「開発途上国の乳幼児の栄養改善」だったが、色々なソリューションを考えてみるものの、いつも「女性の立場の低さ、権利のなさ、収入の低さ」が困難として立ちはだかりました。これを解決することがあらゆる問題の改善につながるのでは、という結論に至り、同じチームにいたマラウイ出身の Elina と、2 人がすでに活動していた「エシカルファッションで女性のエンパワーメントに取り組むもう」とスタートした活動です。</p> <p>②活動の目標：</p> <p>マラウイの女性たちに誇れる仕事を持ってもらうことで、彼女たちが自分の意志で生きられるようになり、社会の中で自分たちの想いを声にできる (VOICE OUT) 自尊心向上・環境作りを目指します。</p> <p>◇仕事を通して、彼女たちの生きがいや自信につなげる。</p> <p>◇収入があることで、子どもの教育費や医療費など、人それぞれが抱える個別の課題を自分たちで解決できるようになる。</p>

◇安定した仕事と収入があることで、彼女たち自身が手に入れたい未来を描けるようになる。

こうした考えから、日本がマラウイとつながる活動なので、
'Project VOICE' (=Vision of International Community Empowerment) と名付けました。

2. 業務実施結果

(1) 実施した内容

活動場所は、マラウイ、リロンゲ県の中でも特に貧困層が住む地域、ムツィリザとエリア49。対象者は、特に仕事が見つかりにくいHIV（エイズ）とともに生きる女性たち30名、高校を卒業していない女性たちです。

【実施内容① 縫製技術トレーニング】

全20回のトレーニングは、ミシンを触ったこともない女性たちが、まずはミシンの使い方を学ぶところから始まりました。基本的な縫い方を習得した後、採寸の方法（マラウイにおいて洋服はオーダーメイドが主流なため、重要なスキル）を学んでもらい、採寸したサイズでのドレスの作り方、そしてスカート、ブラウスの作り方へとトレーニングを進めていきました。洋服以外にも、靴の作り方・修理方法、またバッグの作り方も学んでもらいました。

【実施内容② ビジネススキルトレーニング】

縫製技術を身に付けるだけでなく、ビジネススキルも重要と考え、ビジネススキルトレーニングも提供しました。

2日間行ったビジネスの基礎トレーニングでは、「そもそもどうやって縫製で収入を得るのか」、「布などの材料費や出展料、交通費がかかる上で、どのように価格設定をすれば収入を得ることができるのか」といった内容で、支出、売上げ、利益について学んでもらいました。帳簿の付け方や、在庫管理、自己資金の管理方法も扱いました。

終盤に行ったビジネスカンファレンスでは、多様な講師を招き、あらゆる視点でのインプットを行いました。実務的なレクチャーとしては、銀行口座の開設方法、ローンの借り方、市場への出店方法、ファッション分野のマーケティングについてなどを扱いました。

また、女性たちのモチベーションアップをはかり、彼女たちと同じようなバックグラウンドを持ちながら、ファッションビジネスで成功した女性を講師に呼びました。彼女からは、貧困層として生まれ育った後、縫製スキルを身に付け、どのようにして自立することができたのか、その経験を共有してもらいました。

【実施内容③】ヘルストーク&性教育

今回、対象が HIV（エイズ）とともに生きる女性たちであることもあり、「継続して仕事をし収入を得て生きていくためには、まず健康であることが大事」という考えのもと、ヘルストークと性教育のセッションを行いました。

マラウイでは性教育が十分に行われていないので、基礎的な内容（望まない妊娠や感染症のリスクなど）、また女性の立場が低いマラウイにおいて彼女たち自身の尊厳について（ノーという権利がある、など）、体を売って収入を得ることのリスク、HIV を薬でコントロールして生きていくこと、について学んでもらいました。

(2) 実施成果：

トレーニングを受講した 20 名については、バッグや靴の製作・靴の修理ですぐにでも収入が得られるようなレベルに縫製スキルを習得しました。洋服については、オーダーメイドは常にサイズが異なることもあり、難易度が高いため、もう少し特訓が必要です。

トレーニング序盤では、ミシンの使い方でさえ覚えるのに時間がかかってしまっていた彼女たちに対して、「収入を得られるレベルまでいけるだろうか？」という不安がありました。が、徐々に要領を得て、吸収が早くなっていく姿をみることができ、成長を感じました。実際、ドレスを作るのにはとても時間がかかりましたが、スカート、ブラウスへと進むにつれ、仕上がりが早くなっていきました。

ヘルストーク&性教育のセッションは、彼女たちにとって初めての体験で、「知らなかったことがたくさん」「こんなディスカッションをしたのは初めてで嬉しい」と感想をもらいました。自尊心向上につながられたのではないかと思います。

ビジネスカンファレンスにて、市場への出店方法についてレクチャーを行いました。ティペゼマーケットというテラーが立ち並ぶ市場に、本事業の対象者たちがスペースをもらえることになりました。また、通常は支援を受けにくい人向けに支援を行う銀行や政府組織と、彼女たちをつなげることができたので、今後彼女たちが口座を開設し、事業計画を作り、ローンを借りることも、現実的となりました。

彼女たちがグループで活動することで、バッグや靴で収入を得ながら、ドレス、ブラウス、スカートの作り方を教え合い、できる人からオーダーを受注していくやり方で、ビジネスをスタートする展望が見えています。

(3) 得られた教訓など :

当初トレーニングは 12 回の予定でしたが、序盤のミシンの使い方や採寸の仕方でかなり時間がかかってしまい、回数を増やしました。まったくの初心者向けのトレーニングであり、最初からスムーズにドレスの作り方に入れると思っていたのは、誤算でした。

また、終盤に近づくにつれ、具体的に彼女たちがビジネスをしていくことを考えたときに、必要な実務やリソースを思いつき、終了間際でビジネスカンファレンスの開催決定に至りました。結果非常に良かったです。講師の選定をあわてて行った局面などもあり、反省点でもあります。

(4) 今後の活動・フォローアップの方針 :

上記に記載した通り、個人よりも、複数名のグループの方がビジネスをしやすと考えため、トレーニングを受講した女性たちで組合のような組織を作り、活動を継続する予定です。また女性たちの活動拠点となっている教会にて、受講料を払える方向けに縫製技術トレーニングコースを運営し、ファンドレイズを行っていくことを検討しています。日本では、寄付を募る、また彼女たちが製作したものを販売するなどして、今後もファンドレイズを行っていきます。

3. その他(エピソード・感想・写真など)

(1) 活動中のエピソード・感想など

女性たちは、学ぶ楽しみを覚え、トレーニングの日以外にもみんなで集まり、自習をしていました。教え合う姿もみられ、このプロジェクトとの出会いが、彼女たちにとって「生きがい」を見つけるきっかけになってくれたのではないかと思います。

(2) 活動の写真



ビジネスカンファレンスの講師と



ミシンの使い方を学ぶ女性たち



日頃のトレーニングの様子



布の測り方を学ぶ女性たち



ビジネススキルトレーニングの様子



製作した洋服を試着する女性たち

(3) JICA 基金活用事業を受託したことで団体の成長につながった点・良かった点

ゼロからスタートしたプロジェクトでしたが、1つ1つ内容を考えて実施していくプロセスは、大変やりがいがあり、勉強になりました。また、遠隔でのプロジェクト管理ではありましたが、電話やチャットでの密なやり取りを通して、現地との絆も深まりました。

4. チャレンジ枠の伴走支援制度等について

(1) チャレンジ枠で事業を実施した率直な感想を記載ください。

企画を考えていた時期より、コロナなどもありずいぶん時間が経ってしまいましたが、実現しなかった活動がようやく実施に至り、大変良かったです。

(2) 事業計画策定や業務進捗のモニタリング等の際に伴走支援者から受けた助言が本事業においてどのように役立ったか、具体的な事例があればご紹介ください。

当方の都合で事業の実施中には伴走支援を受けられませんでした。終了間近に受けたコンサルティングの内容は、今後の事業継続に大変有用であったと思います。メモを読み返して、1つ1つ検討し、実施していきたいと思います。

(3) 上記2点を踏まえ、団体の成長となった部分や活動の成果、本事業を通じた学びや今後の方向性について記載ください

スタートから終了まで遠隔でプロジェクト管理を行いましたが、電話やチャットでの密なやり取りを通して、予定していた内容以上に良い内容での実施ができたと思います。現地との絆も深まりました。現地渡航は少し先になりそうですが、このまま遠隔のやり取りで、今後も活動を継続できると思います。